

小さく生んで大きく育てよう！

2010. 9. 17

「シニアクラブ結成総会」



JAM山陰シニアクラブの結成総会が松江市労働会館で開催された。結成総会では、規約、活動方針、役員などを決定し、本格的にシニアクラブの活動がスタートすることとなった。主催者を代表して多久和英紀JAM山陰執行委員長が「シニアクラブは、社会貢献・相互親睦・政策制度要求などに取り組む組織として機能させていきたい。山陰の結成は遅くなってしまったが、まずは小さく生んで大きく育てていこう」と挨拶。

続いて内田敬結成準備委員長から「昨年、結成準備委員会を立ち上げたが、具体的な準備が選挙等の影響で進まなかった。ようやく結成が出来て一歩前進した。今日の結成を期に退職者活動の新しい流れを作っていきたい」と抱負を述べた。

また、JAMシニアクラブから橋村良夫会長も臨席され「全国におけるシニアクラブ結成状況は、旧地方JAM単31

▲内田敬初代会長のあいさつ カ所のうち山陰は27番目の結成となった。今後は多くの皆さんに声をかけて輪を広げて欲しい」と激励した。新役員が選出され、初代会長に内田敬氏(三菱農機)が決定した。



▲あいさつする橋村良夫会長(本部)と結成総会の様子

2011・2012年度シニアクラブ役員

役	職	氏名	出身労働組合
会	長	内田 敬	三菱農機労働組合
副	会 長	酒井 幸雄	神鋼機器工業労働組合
	〃	佐藤 勉	NTN鋳造労働組合
事	務 局 長	遠藤 渡	三菱農機労働組合
幹	事	米田 徳久	大鳥機工労働組合
	〃	倉益 二郎	鳥取電機労働組合
	〃	錦織 誠治	三菱農機労働組合
	〃	加納 雅紀	渡部製鋼所労働組合
会	計 監 査	鈴木 芳雄	明治製作所労働組合
	〃	池田 精次	三菱農機労働組合
事	務 局	川野 英樹	JAM山陰



▲自然の中での食事はサイコー！

▲下草刈りを実施する参加者ら



▲ブナを育成する会の皆さんと参加者での記念撮影

～ボランティア参加者の感想より～

- ◆自然の大切さやなぜブナを植えるのかが分かった。とても勉強になった。
- ◆非常にしんどい作業だったが、地域の水資源や環境の為に活動ができて良かった。
- ◆想像していたよりも険しい場所で、ボランティアの方々の大変さを知ることができた。
- ◆植樹するためにここまで作業をしなければならぬということに驚いた。
- ◆講習を受けた上で作業したので、より理解することができた。
- ◆森林浴ができ自然と触れ合えた。弁当がとてもおいしかった。
- ◆自分たちの行動で大山を守ることにつながるのは、とてもうれしい。
- ◆今度は実際にブナの木を植樹してみたい。
- ◆いろんな人と交流できて楽しかった。

安定した労使関係の構築へ向けて

2010.10.17 鳥取地協「2011合同執行部研修会」 in神鋼機器工業



▲JAM山陰の川野書記長の講演を聞く参加者ら

JAM山陰鳥取地区協議会では、以前幹事会で「執行部が交代し労働組合の経験や知識が薄いメンバー構成となり、どんな活動をどうやってやればいいのかかわからない」との声に応え初めての取り組みとなる「合同執行部研修会」を倉吉市の神鋼機器工業にて開催。7単組から単組役員28名が参加した。

研修会では、初めて顔を合わす参加者も多く、まず全員が自己紹介でアイスブレイキングを行なった。

続いて、JAM山陰の川野書記長から、日本の労働組合の歴史、JAMの説明、執行部の役割、労働組合の抱える課題などについて講演し「労働組合は時代とともに役割や課題も変化しており、それに対応しなければ存在価値を認められない。大変な立場だがやりがいのある立場。この機会を通じて人間的に成長しよう」と呼びかけた。昼食休憩をはさみ午後から、JAM共済のスズメとして「安価でワイドなJAMの共済制度は自信を持って勧める商品。JAMの組合員である特典を最大限活用して可処分所得の拡大を確立しよう」と説明した。

次に、JAM組織・調査グループの遠藤グループ長が「労働組合における執行部の役割は、安定した労使関係を築くことが重要で、すばらしい要求案を作っても会社に受け入れられなければ何もならない。執行部とは組合の利益代表者であり、企業にとっても最大のマネージャーである。会社との信頼関係を築いて、相互協力して達成していくことが大事である」と説明し「みなさんの労働組合は先輩方が作った組織。これまでの活動を後退させないように、良いところは継承し改善すべきは改ためて、組合員のみなさんが安心して働き、暮らせるような環境へ頑張りたい」と要請した。

参加者からは「こんな話は上部団体しか出来る人がいない。大変いい勉強になった」と感想が聞かれた。



▲JAMの遠藤グループ長の講演を聞く参加者ら

「大山の自然を未来へ！」

2010.10.2 青年協「2010 サマーキャンプ」

～緑の大山に来てごしない in 伯耆～

JAM山陰青年協議会は、10周年記念ボランティア「緑の大山に来てごしない！」と銘打って鳥取県西伯郡にある大山(だいせん)で植樹ボラン

ティア準備を実施。15単組から役員・組合員ら40名が参加した。

主催者を代表して宮野浩二議長(三菱農機)は「地球温暖化防止のために自然環境を保護し、未来の人たちに大切な自然を残していこう」とあいさつした。

当日は秋晴れの絶好のボランティア日和となり、午前中は「大山横手道上ブナを育成する会」の吉岡淳一氏より、ブナの木が大山の気候に適し、地球温暖化防止や崩落防止へのブナの効用について講義を受けた。引き続きブナ林に入って植樹の意義や必要性などの説明も受けた。

午後からは、各グループに分かれ今年植樹が行われる場所の下草刈りや、ブナを植える個所の陽当りをよくするための枝切り作業を実施。参加者らは、どのように草を刈ったらよいのか、どの枝を切ればよいのか戸惑っていたものの、ボランティアスタッフの方の丁寧な説明によって、時間とともに作業も速くなり当初の予定よりも広範囲の整備が実施出来た。「ブナを育成する会」の皆さんからお礼の言葉も頂き、参加者らは充実した一日となった。



▲ブナについて講義を受ける参加者